

事業コード	H18-農-終-5		区 分	国庫補助 県単独
事業名	林道事業		部局課室名	農林水産部 森林整備課
事業種別	フォレストコミュニティ総合整備事業		班 名	林道班 (tel) 018-860-1945
路線名等	井戸下田線		担当課長名	森林整備課長 石黒信一
箇所名	井戸下田線(三種町上岩川)		担当者名	主幹(兼)班長 小坂安孝
総合計画との関連	政策コード	N	政 策 名	豊かな自然と調和した個性あふれる農林水産業の振興
	施策コード	05	施 策 名	豊富な森林資源の循環利用による林業の推進
	指標コード	02	施策目標(指標)名	林道・基幹作業道密度

1. 事業の概要

事業期間	H06 ~ H16 (11年)	総事業費	11.8億円	国庫補助率	5/10	
事業規模	森林基幹道 幅員5.0m 延長7,760m 利用区域 563ha					
事業の立案に至る背景	<p>公益的な機能の持続的な発揮のため、適正な森林の管理に必要な路網の整備が求められていた。利用区域に国有林も多いことから、地域からは、民有林、国有林一体の共同施業の促進や施業委託の推進についての要望が大きかった。</p> <p>県道等の幹線道路と接続することにより、森林総合利用施設や歴史文化施設(房住山周辺)、自然観察教育林等へのアクセス道としての整備も求められた。</p>					
事業目的	<p>既設林道等と有機的に連絡する循環型の路網を形成することにより、移動時間の短縮による労働環境の改善と施業範囲の拡大を図る。</p> <p>高性能林業機械の導入による林業生産性の向上と間伐木等林産物の運搬路としての路網整備を図る</p> <p>古くから山岳信仰の対象とされている「房住山」や「自然観察教育林」等へのアクセス道としての機能を付加することにより、環境教育やレクリエーションの場として活用を図る。</p>					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		当初計画	最終	<p>最終コスト比較</p> $C / C = (1.22)$ <p>最終費用便益比</p> $B / C = (2.51)$		
	事業費	960,000	1,170,200			
	経費内訳	工事費	898,367	1,105,631		
		用補費	0	0		
		その他	61,633	64,569		
	財源内訳	国庫補助	480,000	585,100		
		県債	345,000	421,000		
		その他	96,000	117,020		
		一般財源	39,000	47,080		
	事業内容	W=5.0m L=8,000m	W=5.0m L=7,760m			
事業終了後の問題点	一部急峻な箇所を通過することになったこと。また、想定外の岩盤が現れたことによる法面保護工の増工や路体確保のため施工した構造物の増工に伴い、工事費が増額となった。					
住民満足度等の状況 (事業終了後)	<p>満足度を把握した対象 受益者 一般県民 (時期:平成18年 9月)</p> <p>満足度把握の方法 アンケート調査 各種委員会及び審査会 ヒアリング インターネット その他の方法(具体的に 町主催のイベント等での聞き取り)</p> <p>満足度の状況</p> <p>林業事業関係者からは連絡線形となったことにより、作業現場への移動時間が短縮となり労働環境が改善したとの意見がある外、毎年、春と秋に実施される房住山登山の参加者や登山道沿線に建立されている三十三観音像奉獻者等からは、「利便性が向上した」との意見が寄せられている。</p>					
上位計画での位置付け	米代川地域森林計画に整備路線として計画されている。 あきた21総合計画における施策「豊富な森林資源の循環利用による林業の推進」を支援する事業					
関連プロジェクト等	米代川流域森林・林業活性化アクションプログラム 間伐等推進5カ年対策					

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止																												
	指摘事項 特になし																												
事業効率把握の手法及び効果	指摘事項への対応																												
	特になし																												
事業効率把握の手法及び効果	<table border="1"> <tr> <td>指 標 名</td> <td colspan="4">全県における林道・基幹作業道密度</td> </tr> <tr> <td>指 標 式</td> <td colspan="4">林道・基幹作業道密度 = (林道延長 + 基幹作業道延長) / 民有林面積</td> </tr> <tr> <td>指 標 の 種 類</td> <td>成果指標</td> <td>業績指標</td> <td>低減指標の有無</td> <td>有 無</td> </tr> <tr> <td>目 標 値 a</td> <td colspan="2">7 m/ha</td> <td rowspan="2">データ等の出典</td> <td rowspan="2">林道事業実績報告書</td> </tr> <tr> <td>実 績 値 b</td> <td colspan="2">6 m/ha</td> </tr> <tr> <td>達成率 b / a</td> <td colspan="2">81 %</td> <td>把握の時期</td> <td>平成18年 6月</td> </tr> </table>	指 標 名	全県における林道・基幹作業道密度				指 標 式	林道・基幹作業道密度 = (林道延長 + 基幹作業道延長) / 民有林面積				指 標 の 種 類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	目 標 値 a	7 m/ha		データ等の出典	林道事業実績報告書	実 績 値 b	6 m/ha		達成率 b / a	81 %		把握の時期	平成18年 6月
	指 標 名	全県における林道・基幹作業道密度																											
	指 標 式	林道・基幹作業道密度 = (林道延長 + 基幹作業道延長) / 民有林面積																											
	指 標 の 種 類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無																								
	目 標 値 a	7 m/ha		データ等の出典	林道事業実績報告書																								
	実 績 値 b	6 m/ha																											
	達成率 b / a	81 %		把握の時期	平成18年 6月																								
	指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法																												
	指標を設定することができなかった理由																												
具体的な把握方法と効果（見込まれる効果） データの出典含む																													

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 結 果
有 効 性	住民満足度の状況 A B C 施業地までの移動時間が短縮され、効率的な森林施業が出来るようになったとの意見や登山者や施設の利用者等からは、利便性が高まったとの意見が寄せられている。	A
	事業の効果 A 達成率100%以上 B 達成率80%以上100%未満 C 達成率80%未満	B
	今までに、間伐等を主体に利用区域面積の26%（採択基準は10%以上）、149haの森林施業を実施している。今後も未着手だった森林の整備は拡大される。	C
効 率 性	事業の経済性の妥当性 A B C B / C が 2.51 と林道事業施行要件の 1.0 以上を大幅に上回っており、経済性の妥当性は高い。	A
	コスト縮減の状況 A 縮減率20%以上 B 縮減率20%未満 C 縮減なし	B
	当初想定していない岩盤の出現等により、最終コスト比は1.22と高くなった。	C
総 合 評 価	A (妥当性が高い) B (概ね妥当である) C (妥当性が低い)	
	当初計画に比較して事業費は増大したものの、概ね事業計画に沿って整備が進み、有効性・効率性も高いことから、事業実施の妥当性は高いと判断される。	

3. 評価結果の同種事業への反映状況等（対応方針）

再生産可能な資源である森林の整備の推進及び生産コストの低減に寄与できる基盤施設として、土工量の縮減や再生材の利用等、コスト縮減に積極的に取り組み、効率的な事業施行に努める。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の評価及び対応方針を可とする。

終了箇所評価判定点検表

(様式 8 - 1)

(1) 各評価項目の判定基準

観点	評価項目	判定基準	配点	1次	2次	評価結果	
ア有効性	一 住民満足度の状況	a 住民満足度を的確に把握しており、満足度も高い	2	2		A:有効性は高い (4点)	
		b 住民満足度を把握しているが、手法が的確でない又は満足度が低い	1				
		c 住民満足度を把握していない	0				
	二 事業目標の達成状況	a 達成率が100%以上	2	2		B:有効性はある (1~3点)	
		b 達成率が80%以上100%未満	1				
		c 達成率が80%未満	0				
計			4	4		A	
イ効率性	一 事業の経済性の妥当性	費用便益比	a B/Cが、国庫補助採択基準がある場合はそれ以上その他の場合は1.5以上となっている	2	2	A:効率性は高い (2点)	
			b a、c以外	1			
			c B/Cが、1.0未満	0			
	二 コスト削減の状況(費用便益比が算定できない場合)	a 当初と比較して最終コスト削減率が20%以上	2	0		B:効率性はある (1点)	
		b 当初と比較して最終コスト削減率が20%未満	1				
		c 当初と比較して最終コスト削減率がなし	0				
計			2	2		A	

(2) 総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価	
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	A	
B (概ね妥当である)	「A」判定、「C」判定以外の場合		
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合		